

# 令和6年度児童発達支援センター事業計画書

## I 児童発達支援センター「つくし園」

### 1 運営方針

つくし園は発達に課題のある子どもへの専門療育・支援施設として、心身の健康保持と増進、基本的生活習慣の確立、社会性の獲得を目的に日々療育を行い、心身共に豊かに育っていただける施設づくりに努めます。その具体的な内容として

- ① 児童の生きる力を育む発達支援
- ② 児童のライフステージに応じた支援
- ③ 児童の生活の場、地域における支援
- ④ 発達に課題のある児童とその家族を含めた家族支援

施設の運営にあたっては、児童発達支援センターとして「児童発達支援」「障害児相談支援」「保育所等訪問支援」（摂津市指定管理事業）「くまさん親子教室」（摂津市委託事業）の四つの事業を実施し、児童発達支援センターが地域支援体制の中核的な役割を果たせるよう活動していきます。

「児童発達支援」は通園利用の子どもたちをはじめ、施設を利用する未就学児に対して、日常生活における基本的生活習慣の確立、身近な人との信頼関係の構築、子育てに不安を持つ保護者に対し保護者支援を行います。

「障害児相談支援」は発達に課題のある児童を対象に、障がい特性へのきめ細かい配慮を行い、児童本人と家族の困り事を聞きとり最適な福祉サービスが利用できるよう取り組んでいます。また、利用児や保護者の利便性を考え、障害者総合相談支援センター（つくし園分室）でも相談等を行っています。さらに子育てに悩みを抱える保護者からの一般相談にも応じ、必要に応じて関係機関とも連携、調整を行っています。

「保育所等訪問支援」は、発達に課題のある児童の保護者からのニーズを受けて保育所・幼稚園・こども園・学校等を訪問し、集団生活で自分の力を発揮し自信を持って過ごすことができるように保育士、教職員等に専門的なアドバイスを行うほか、その他の必要な支援を行っています。

「くまさん親子教室」は、市の委託事業として、家庭児童相談課、出産育児課と連携し、発達に課題のある子とその保護者、また、保護者の育児力を育む等の家庭支援が必要な親子を対象に市内3か所、（つくし園・第1児童センター・支援センター）で行います。また、今年度より第1児童センターでの開催が週1日から2日となりより連携を深める事に加え、同センターで行っている乳幼児教室に専門職を派遣し市民ニーズに対応していきたいと考えています。

さらに令和6年4月に児童福祉法が改正されることにより、地域における児童発達支援センターの機能が強化され、当園の役割も重要となってきます。それに伴い、市の中核施設となるよう児童通所支援事業所連絡会の充実、各事業所向け研修会の実施等、新たな事業展開も必要となり、子育て支援課と協議しながら事業を進めると共に、より専門性を高めるこ

とが出来の様取り組んで行きたいと考えています。

園舎については、昭和57年に建設され、経年劣化が避けられない状態であり年々修繕などの経費がかかるようになってきています。摂津市の建物点検が実施され、老朽による破損箇所等の修繕は実施されますが、利用者に安全に快適に利用していただくためにも、園舎内部・外構・電気設備・衛生設備・空調設備等の計画的な補修・修繕を市子育て支援課と協議し進めていきます。それに加え、厨房器具等の経年劣化による故障も考えられますので、取り替え時期も計画的に検討していきます。

## 2 児童発達支援（通園支援）

通園児の支援は、年齢・発達状況・親子関係等個々に応じて行います。親子通園クラスは、子ども自身の課題と環境的要因に着眼した発達援助、並びに養育基盤である家庭の安定に向けた療育・援助を行います。その後、年齢や発達段階に応じて単独通園クラスに移行します。また、園児の発達課題や実情に照らした保育内容の細分化・グループ化によるきめこまやかな療育を実施するとともに、次年度就学を迎える園児への個別プログラム等の充実に努めます。

めばえ園の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士及びくまさん親子教室を担当する公認心理師との連携をさらに高め、多職種スタッフによる協働でより専門的な療育に取り組みます。

### （1）療育の内容

#### ア 親子関係の構築

親子通園を通して、人間関係の基盤となる親子関係の構築を育むと共に、職員が共に子育てすることで、保護者の育児力を育みます。

#### イ 基本的な生活習慣の獲得

食事、排泄、更衣等の日常的、基本的な生活動作を通して生活習慣を身につけ、生活リズムを整えるように援助します。

#### ウ からだづくり

生活リズムを整え、からだを動かしての遊び、自然に触れながらの心身の発散をすることによって丈夫なからだをつくります。また、食事指導や歯磨き指導を通して衛生や健康への意識を高めます。

#### エ 社会性を育む

身近な大人との信頼関係を基盤に、集団の中で、自分を発揮出来る環境を整えます。また、個別の遊びや集団遊び・行事等を通して経験の幅や人とのかかわりを広げ、人との関係を育みます。

#### オ 交流事業

地域での育ちを豊かにするための子育て支援事業に積極的に参画・参加し、園児の経験の幅や人とのかかわりをひろげます。また、市立こども園園児との交流に向けて、協議を行います。

(2) 健康管理の充実

- ア 園児の健康状態を把握するため定期的に健康診断を実施するとともに、必要に応じて医療機関との連携に努め助言・指導を受け、療育に活かしていきます。
- イ 家庭と連携して生活リズムを見直し、生活にメリハリをつけ、生活リズムが整い、安定した生活が送れるよう支援し、すこやかな成長を育みます。
- ウ 必要に応じて府及び市の担当保健師、医療機関との連携を図り、助言・指導を受け、療育に活かしていきます。

(3) 給食

児童の特性、年齢に応じた献立を栄養士が立案し、給食会議で検討、見直しを行なったうえで提供していきます。また、栄養価を摂取する事だけを目的とせず、一人ひとりの子どもたちが、食べる事を楽しみながら食事動作、食事マナーの獲得に向けて取り組みます。委託業者との連携を密にし、より子ども達が食への意識を高めることが出来る様、栄養士・担当職員による喫食状況の把握、子どもの状況に配慮した調理形態の工夫などに努め、さらに子どもにあった給食の提供に努めます。また、食物アレルギーのある児童に対し、可能な限りアレルギー除去食の対応をします。

(4) 年間行事予定

月	主 な 行 事	定 例 行 事
4	・保育説明会	〈健 康 診 断 等〉 ・内科健診（年2回） ・耳鼻科健診（年1回） ・歯科健診（年1回） ・検尿（年1回）
5	・日曜参観	
6	・学校見学	
7	・七夕まつり ・夕涼み会	
8		
9		
10	・遠足 ・体験入学	
11	・運動会 ・教育支援会議	〈月 例 行 事〉 ・避難訓練 ・身体測定 ・合同親子保育 ・単独クラス親子保育 ・個別面談、クラス面談 ・参観（随時）
12	・クリスマス会	
1	・保育所等一日保育	
2	・豆まき ・生活発表会	〈その他の行事〉 ・誕生日会（年4回）

3	・ひなまつり ・お楽しみ会 ・卒園・修了式	
---	--------------------------	--

(5)日課予定表

時 間	通園児の日課	処遇職員等の活動
9:00~10:00	登 園	送迎バス運行（バス車内指導） 受入れ準備
10:00~10:15	更衣、排泄 シール貼り	更衣指導・援助 排泄指導・援助
10:15~10:45	コーナーあそび	連絡ノート確認 園児主体のあそびの環境設定
10:45~11:30	朝の会（挨拶、お話、手遊び） 設定保育（感覚あそび、運動あそび、製作あそび・散歩等）	出欠確認、健康状態の把握 支援計画に基づく支援
11:30~12:30	片付け、排泄、給食準備 給食	食事支援
12:30~14:00	歯磨き 戸外あそび、散歩、室内あそび等	歯磨き 園児主体のあそびの環境設定
14:00~14:40	片付け・排泄 おやつ 更衣 降園準備	排泄・更衣・降園準備の支援
14:40~15:00	終りの会（歌、お話など）	保護者への連絡事項確認
15:00~16:00	降 園	送迎バス運行（バス車内指導） 施設内清掃・面談・保育準備

(6)保護者支援・連携

「ともに子育てをする」事をねらいとし、親子通園、親子保育等を通して、子どもの課題や家庭での様子、保護者の困り事を共有し、必要に応じて他機関と連携し安心して子育てできる環境作りに取り組みます。また、つくしんぼ教室として保護者の勉強会等を企画し共に学べる場を提供します。

ア. 家庭との連絡

毎日の連絡ノートにより、子どもの家庭での様子や園での様子を連絡し合うことにより、日々の状態の把握に努めるとともに相談にも応じます。月1回園だよりを発行し、ています。

#### イ. 各種面談・親子保育等

項 目	実 施 形 態
個 別 面 談	園児ごと 年3回 進路指導も含む
ク ラ ス 面 談	クラスごと 毎月1回
三 者 面 談	必要に応じて実施
家 庭 訪 問	入園時、他必要に応じて実施
合同親子保育	毎月1回 2クラス合同で実施
単独クラス 親子保育	毎月1回 単独通園クラスの親子保育日

#### (7) 災害・事故防止対策

災害(火災・地震等)の際にはより丁寧な配慮を必要とする児童が利用していることから、安全の確保を図るため訓練を実施します。また、施設内への不審者の侵入を未然に防ぎ、備品を含め日常的に安全の確保に努めます。

また、今年度より作成が義務化となった「業務継続計画」を作成し保護者にも周知しています。

- ・避難訓練(月1回)      ・普通救命講習(年1回)      ・消火・通報訓練(年2回)
- ・防犯訓練(年2回)      ・遊具安全点検(毎日)      ・業者委託遊具安全点検(年1回)

#### (8) 関係機関との連携

必要に応じて、子育て支援課・家庭児童相談課・出産育児課との連携を図り個々の支援を充実させていきます。医療機関との連携については、早期療育に伴う医療的ケアの必要な園児の受け入れも行っていることから、経過の把握と必要に応じた指導を行います。

また、進路指導については、教育支援課、こども教育課、府立支援学校、市内小学校、幼稚園、保育所、こども園などとの連絡調整を図り、教育相談、体験入学、進路先訪問などの機会を通して情報の交換を行い、連携を深めていきます。市内小中学校の支援学級担当者との研修会を実施するほか、五中校区地域教育協議会及び市子育て支援ネットワーク推進会議に参画し、子どもたちが健やかに育つための環境づくりを進めていきます。

### 3 障害児相談支援

#### ア. サービス利用計画の立案

児童福祉法の改正に伴い役割も増えることから、今年度相談支援員を増員し、相談支援専門員6名と相談員1名(令和6年度に相談支援専門員研修受講予定)で、出産育児課、子育て支援課、家庭児童相談課、府茨木保健所からの紹介、または保護者からの電話等での直接相談に対応していきます。保護者・本人の相談を傾聴し、ニーズの把握に努め、児童に応じた福祉サービスを紹介、計画相談を立案し、個々の児童に合った福祉サービスの利用に繋げていきます。

各関係機関、各事業所とも密に連携を図り、福祉サービスの向上に努めます。さらに

子育て支援課と連携のもと、各障害児相談支援事業所と定期的に会議を行うなどし、摂津市の障害児相談支援の充実・向上に取り組みます。

#### イ. 地域支援

地域課題に目を向け、課題については相談支援部会等で相談し、必要に応じてワーキングに参画、立ちあげる等解決に向けて取り組みます。

#### 4 保育所等訪問支援

作業療法士、公認心理師等訪問支援員がこども園、保育園、幼稚園、小学校を訪問し、利用児童が生活の場で自分を発揮し、落ち着いて生活することが出来る様、子どもへの直接支援及び担当保育士、教師に助言等の支援を行います。訪問時の様子については、訓練等での来園時に保護者に報告し、園との連携、家庭での生活に生かせるよう援助します。また、訓練士と訪問員が連携し、子どもの課題を共有し、双方のサービスの充実を図ります。

#### 5 くまさん親子教室（摂津市委託事業）

家庭児童相談課・出産育児課からの紹介により、発達や養育上に課題のある1～3歳児とその保護者を対象とした親子教室を実施しています。親子で参加してもらうことにより、発達支援及び育児支援を行います。保育士、心理士など多職種の職員が関わることで、多面的な視点を持って支援できる体制を構築しています。また、保護者からの希望があった場合、就園先の幼稚園、こども園等とも連携を行い、安心して次のステージに移行できる様取り組みます。さらに今年度より、児童とその家族の多様なニーズに対応するため、保育園、こども園、幼稚園等に通っている3歳児を対象に午後グループを開始を検討しています。終了後のフォローとしては引き続き年2～3回交流会を実施します。

#### 6 各種会議

施設運営に関する事項及び各事業間の連携を図り、事業内容の向上、円滑な業務運営を推進するため次の会議を開催、参加します。

- ・施設連絡会議（毎月2回）
- ・給食会議（毎月1回）
- ・行事会議（随時）
- ・年度まとめ会議（年1回）
- ・職員会議（毎月1回+随時）
- ・ケース会議（随時）
- ・虐待防止、身体拘束適正化委員会（年2回）
- ・防止アンネージャー会議（年3回）
- ・法人行事担当者会議（随時）
- ・子育て支援課、家庭児童相談室課、出産育児課との会議（引継ぎ、判定会議、情報意見交換など）（随時）
- ・障害児相談連絡会（随時）
- ・教育支援会議（随時）
- ・児童発達支援事業所連絡会議（年6回）

#### 7 職員研修

職員の知識、支援技術の向上を目的とし研修参加を奨励します。

- ・法人主催研修への参加（会計・虐待・メンタルヘルス等）
- ・職員勉強会の実施（年8回）
- ・外部講師による虐待研修・個人情報保護研修の実施
- ・外部研修参加への奨励（研修案内の回覧、掲示による周知）
- ・資格取得等に向けた研修計画の立案（相談支援専門員・児童発達支援管理者・医療ケア児支援等）及び受講
- ・専門性向上のため、各職種別研修及び多職種連携研修

## 8 実習生・ボランティアの受け入れ

保育士等を目指す学生を対象に、各学校と連携を図り実習生の受け入れを行います。また、地域に根差す施設、発達に課題のある児童の理解を深めることをねらいとし、状況に応じて、ボランティアの受け入れを行います。

## 9 虐待防止

利用者等の人権の擁護・虐待の防止等のために、「障害者（児）施設における虐待の防止について」に準じた取扱いをするとともに、次に掲げるとおり必要な措置を講じます。

- ・「虐待防止、身体拘束等適正化委員会」のメンバー並びに、虐待防止マネージャーを選出し、定期的に会議を行います。
- ・苦情解決体制の整備を行います。
- ・職員に対する虐待防止を啓発・普及するための研修を実施します。
- ・個別支援計画の作成など適切な支援の実施に努めます。
- ・職員が支援にあたっての悩みや苦勞を相談できる体制を整えるほか、職員が利用者等の権利擁護に取り組める環境整備に努めます。

## 10 苦情解決システム

保護者からの相談、苦情などに対応する窓口を設け、利用児及び保護者の立場に立って誠実かつ迅速な対応に努めます。苦情内容については、園内で共有、検討し今後に向けての改善策についても話し合いを行います。

## 11 個人情報の保護

法人の個人情報保護管理規程及び方針に基づき当園が保有する情報の紛失、漏えい、改ざん等を防ぐとともに情報の管理を適正に行います。

## 12 業務継続計画

令和5年度に作成した業務継続計画に基づき、感染症発生時、災害発生時においても事業を継続出来るよう取り組みます。また、日頃から起こった時に備えて、研修及び訓練を行い、評価し計画の見直しも随時行います。

### 13 令和6年4月の児童福祉法の改正における当園の役割及び取り組みについて

令和4年6月に成立した改正児童福祉法が令和6年4月に施行されます。その中に児童発達支援センターが地域において中核的な役割を果たし、地域における障害児支援体制の強化がうたわれており、主に以下のような役割があげられています。

- ① 幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援
- ② 地域の障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能
- ③ 地域のインクルージョン推進の中核機能
- ④ 地域の発達支援に関する入口としての相談機能

また、どの子ども地域で発達支援を受けることが出来る様、福祉型児童発達支援センターと医療型児童発達支援センターが一元化されることになりました。

当園においても、今まで以上に専門性と新たな事業展開が必要となります。子育て支援課と協議を行い取り組んで行くと共に、職員ひとり一人が自己研鑽に努め、意見交換しながら、作り上げていきたいと思えます。



## II 障害児通所支援施設「めばえ園」

### 1 運営方針

めばえ園は、利用者にとって身近な地域の障がい児支援の専門施設として、未就学児を対象に個々の子どもの課題、ねらいに合わせて発達支援を行う「児童発達支援」と、就学児対象に、放課後や長期休暇を利用して日常生活における基本的動作の習得、コミュニケーション等、個々の課題やねらいに応じた訓練等の発達支援を行う、「放課後等デイサービス事業」を実施しています。また、利用児の生活場面である保育所・幼稚園・こども園・学校と連携を図り、一人の子どもが関係する機関で総合的に支援できるよう取り組みます。

障がいのある子への専門療育訓練・支援施設としての機能の充実・サービスの向上・専門性の向上に努め、個々の子どもに対し適切な指導・療育・訓練を行います。

各々の訓練については、理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語療法（ST）及び乳幼児のグループ療育等により豊かな育ちを支援するために、心身の状況や環境に応じた日常生活における基本的動作の習得等、個々に応じたサービス提供を行います。また福祉・教育・保健・医療と連携し発達に課題のある子どもたちの子育てを家族も含め支援し、摂津市における発達に課題のある子どもとその家族の支援施設として地域の拠点となるよう進めていきます。

### 2 サービスの内容

#### ア 理学療法

主として日常生活動作訓練による基本的な身体運動の発達を目的として、個々の身体の状態・状況に合わせて個別訓練を行います。親子同室で訓練を行うことによって、家庭生活における配慮や環境設定、家庭でもできる訓練についてもアドバイスをを行います。

#### イ 作業療法

全身機能・手指機能、知覚、認知、概念の学習を主として行い、ボディイメージの獲得、体幹の安定・手指巧緻性の獲得を通して集中力の向上に取り組んでいます。そのことにより、机上課題への取り組み、学習への意欲向上に繋がります。

#### ウ 言語療法

口腔器官、聴覚器官だけの障がいだけでなく、それらを制御する中枢神経に問題がある場合もありますので、早期治療を行い伝達、思考、記憶への発達面の援助を行います。

また、訓練士とのやり取りを通してコミュニケーション手段の獲得も育みます。

#### エ 療育グループ（週1回）

1歳半健診後のフォロー教室である「すこやか教室」終了後、引き続き配慮や療育を必要とする親子に対し、親子教室を実施します。親子で参加し一緒に遊ぶことを通して利用児の成長発達を育むと共に、保護者には子どもの発達課題および発達状況についての理解を深め親子関係の構築に努めます。また、最近では早期療育の場として、保育園等に在籍している児童の参加も増えていることから、今後も多様なニーズに合わせ、参加しやすい環境作りに取り組めます。

また、家庭状況、児童の発達状況を踏まえた進路指導を行うと共に、保護者面談を通して保護者の子育てに対する不安の軽減を図ります。

#### オ 送迎サービス

誰もが来園しやすいよう可能な限りで送迎サービスを行います。

#### カ 週間予定表

		月	火	水	木	金
P T	午前		○			○
	午後		○			○
O T	午前	○	○	○	○	○
	午後	○	○	○	○	○
S T	午前	○	○	○	○	○
	午後	○	○	○	○	○
療育G	午前			○	○	

\*それぞれの訓練について随時、市関係機関からの紹介により観察（療育Gは見学）を受け入れます。観察後（見学）、保護者に結果報告を行い、保護者の利用希望があった場合しかるべき手続きを経て、訓練（グループへの参加）を開始します。

\*他事業所も利用児童は相談支援専門員による計画相談立案後。等事業所のみ利用児については保護者によるセルフプラン申請後利用開始

### 3 保護者及び関係諸機関との連携

#### (1) 保護者との連携

- ・療育・訓練に親子での参加・保護者同伴で通室してもらい、家庭での子どもの様子を聞きながら訓練を行なう事により子どもの課題により応じた訓練を実施します。また、保護者には子どもへの対応と子どもの発達状況および行動の意味の理解を深め、育児力を育み、家庭での育児負担の軽減に努めます。
- ・必要に応じて公認心理師による発達検査を行ない、それを基に進路相談、育児相談を行ないます。

#### (2) 多職種連携

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師、保育士が連携をはかり、多面的に児童を捉え、療育に取り組みます。また、必要に応じて心理士による保護者面談を行います。

#### (3) 関係機関との連携

- ・市教育支援課、こども教育課、家庭児童相談課、出産育児課等と連携し、利用児を総合的にとらえて支援を行ないます。

- ・利用児の在籍園・校担当者に療育の見学に来ていただき等連携を図り、児童が安心して生活を送ることが出来る様取り組みます。
- ・個別支援計画作成においては、関係諸機関との連携においてより児童の理解に努め、よりよい支援サービスを提供していきます。
- ・摂津市発達支援担当者会議に参画し各機関の連携体制を充実させ、役割分担を行ない、一人ひとりの児童に適切な支援を行うことが出来る様取り組んでいきます。

#### (4) 医療との連携

主治医・市出産育児課担当医の意見に基づいて訓練を行います。訓練開始後も状況に応じて連携を図ります。また、必要に応じて補装具の相談にも応じます。

#### 4 各種会議

施設運営に関する事項及び各事業間の連携を図り、事業内容の向上、円滑な業務運営を推進するため次の会議を開催、参加します。

- ・施設連絡会議（毎月2回）
- ・給食会議（毎月1回）
- ・行事会議（随時）
- ・年度まとめ会議（年1回）
- ・職員会議（毎月1回+随時）
- ・ケース会議(随時)
- ・虐待防止、身体拘束適正化委員会(年2回)
- ・防止アンネージャー会議(年3回)
- ・法人行事担当者会議(随時)
- ・子育て支援課、家庭児童相談室課、出産育児課との会議（引継ぎ、判定会議、情報意見交換など）(随時)
- ・障害児相談連絡会（随時）
- ・教育支援会議（随時）
- ・児童発達支援事業所連絡会議（年6回）

#### 5 職員研修

職員の知識、支援技術の向上を目的とし研修参加を奨励します。

- ・法人主催研修への参加（会計・虐待・メンタルヘルス等）
- ・職員勉強会の実施（年8回）
- ・外部講師による虐待研修・個人情報保護研修の実施
- ・外部研修参加への奨励（研修案内の回覧、掲示による周知）
- ・資格取得等に向けた研修計画の立案（相談支援専門員・児童発達支援管理者・医療ケア児支援等）及び受講
- ・専門性向上のため、各職種別研修及び多職種連携研修

#### 6 災害・事故防止対策

利用児の特性により、災害（火災・地震等）の際には特に配慮を要する児が多いことから安全の確保を図るため訓練を実施します。また、施設内への不審者の侵入を未然に防ぎ、備品を含め日常的に安全の確保に努めます。

また、今年度より作成が義務化となった「業務継続計画」を作成し保護者にも周知してい

ます。

- ・避難訓練（月1回）
- ・防犯訓練（年2回）
- ・消火、通報訓練（年2回）
- ・普通救命講習（年1回）
- ・業者委託遊具安全点検（年1回）
- ・遊具安全点検（毎日）

## 7 虐待防止

利用者等の人権の擁護・虐待の防止等のために、「障害者（児）施設における虐待の防止について」に準じた取扱いをするとともに、次に掲げるとおり必要な措置を講じます。

- ・虐待防止・身体拘束適正化委員会の設置および虐待対応マネージャーを選出し、定期的に会議を行います。
- ・職員に対する虐待防止を啓発・普及するための研修を実施します。
- ・個別支援計画の作成など適切な支援の実施に努めます。
- ・従業者が支援にあたっての悩みや苦労を相談できる体制を整えるほか、従業者が利用者等の権利擁護に取り組める環境整備に努めます。

## 8 苦情解決システム

保護者からの相談、苦情などに対応する窓口を設け、利用児及び保護者の立場に立って誠実かつ迅速に対応し改善に努めます。苦情内容については、園内で共有、検討し今後に向けての改善策についても話し合いを行います。

## 9 個人情報の保護

法人の個人情報保護管理規程及び方針に基づき、めばえ園が保有する情報の紛失、漏えい、改ざん等を防ぐとともに情報の管理を適正に行います。

## 10 業務継続計画

令和5年度に作成した業務継続計画に基づき、感染症発生時、災害発生時においても事業を継続出来るよう取り組みます。また、日頃から起こった時に備えて、研修および訓練を行い、評価し計画の見直しも随時行います。

## 11 令和6年4月の児童福祉法の改正における当園の役割及び取り組みについて

令和4年6月に成立した改正児童福祉法が令和6年4月に施行されます。その中に児童発達支援センターが地域において中核的な役割を果たし、地域における障害児支援体制の強化がうたわれています。また、放課後等デイサービスの在り方についても、幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援が求められています。

当園においても、今まで以上に専門性と新たな事業展開が必要となります。子育て支援課と協議を行い取り組んで行くと共に、職員ひとり一人が自己研鑽に努め、意見交換しながら、作り上げていきたいと思っております。

